

導入事例

ASH CORPORATION CUSTOMER STORIES :
GLADSAD

導入事例

GLADSAD



映画・CMのリモート撮影に
QTAKE Cloud Syncが活躍



QTAKE Serverと拡張機能で、 世界中からリモートプレビューが可能に

世界的なパンデミックは、映像業界にも多大な影響を与えた。撮影クルーの移動が制限されるなか、人と人との接触機会を減らしつつ映像制作を進めるため、リモートワークへのニーズはまだまだかつてない高まりを見せている。映画やCM、ミュージックビデオのDITおよびカラーグレーディングを行う株式会社GLADSAD（本社：東京都港区、以下GLADSAD）は、国内外の有名作品を多数手がけており、海外や遠隔地との連携が必要なプロジェクトではQTAKEのリモートワークフロー向け拡張サービス「QTAKE Cloud Sync」を活用している。GLADSAD代表兼DITの山口 武志さんと、同社でQTAKEオペレーターを務める蓮生さんに話を聞いた。

本題に入る前にQTAKEについて紹介しておこう。

QTAKEによるビデオアシストとは？

ビデオアシストとはハリウッドで生まれた概念で、収録から編集までのワークフローを効率化する機材、あるいはそれを操るオペレーターを意味する。QTAKEは、IN2CORE社（本社：スロバキア）が開発したビデオアシスト業務に特化したMac OS X向けのソフトウェアだ。撮影時、カメラ収録と同時にインジェストを行い、キーイング、色調整、LUT機能などを用いたモニタリングとプレイバックを可能にする。つまり、完成に近い状態を確認しながら撮影ができる。また、さまざまなメタデータ・撮影記録を効率的に整理でき、収録後にはポスプロ向けの万全なデータが出来上がるため、即座に編集作業に移ることが可能になる。QTAKEは、ハリウッド映画をはじめ、NetflixやApple TV、CM撮影など、世界中の撮影現場で活用されている。

QTAKEを使ったリモートワークフローとは？

QTAKEビデオアシストシステムは、オンセット用のメタデータコラボレーションシステムQTAKE Serverを中核に、必要に応じて機能を追加できる、多数のモジュールで構成されている。

リモートワークフロー向けモジュール

- ・**QTAKE STREAM** - 配信用のモジュールで、ローカルエリア内のMacOS・iOSデバイスに安全かつ低遅延な映像を配信することができる。撮影スタッフやクライアントは、QTAKE専用の無料アプリケーション QTAKE MonitorをインストールしたiPadやiPhoneで配信映像の視聴が可能だ。
- ・**QTAKE Cloud Stream** - QTAKE STREAMの機能をローカルエリアネットワーク外に拡張するサービスで、世界中に安全で暗号化された配信が可能になる。さらに、QTAKE Cloud Syncサービスを追加すると、QTAKE Monitorアプリから収録クリップとメタデータにもアクセスできる。QTAKE ServerにQTAKE Cloud StreamとQTAKE

Cloud Syncサービスを組み合わせることで、遠隔地にいる撮影チームにも、安全な配信とモニタリング・プレイバック環境を提供することができる。

一 はじめに、QTAKEを使い始めた頃の印象を教えてくださいませんか？

山口 武志 (以下、山口) : QTAKEを導入したのは2015年頃です。初めて触った時は、ユーザーインターフェイスが直感的で動作が軽いと感じ、そして僕がDITとして求めていた機能が全て揃っていた事に驚いた事を覚えています。

一方で、撮影機材は屋外ロケや高熱を発生させる機器に囲まれる過酷な温度環境や、運搬や車での振動の中で作業をすることがよくあります。その際にQTAKEは、他の撮影機器と比較して熱と振動に弱いという印象がありました。最近ではハードウェアの進化により改善されてきていますが、当時は海外のDITや日本のDITと話す中で“熱、振動、耐久が不安で導入しないチーム”と、“熱、振動、耐久に不安はあるがQTAKEの機能が必要であり、各不安に対処を構築して稼働させるチーム”に分かれていました。

僕はQTAKEの機能に強い魅力を感じていたので、最初から「対処のシステムを構築して稼働させるチーム」でした。熱対策の例としては、超小型の電熱クーラーをベースに組み込んだり、真夏のスタジアムではアイシングバッグ×3で対処したりして。他にも色々と試しました。現時点でも、導入して良かったと考えています。GLADSADが必要とされている仕事をする為には、QTAKEの機能とQTAKEオペレーターは絶対に必要な能力です。

蓮生 : 私はQTAKEを使い始めて、もうすぐ3年になります。DITアシスタントの仕事をした時からQTAKEがあるのが通常でした。なのでもはや、QTAKEが無かった頃はどのように作業していたのが想像できません (笑)。それくらい“あるのが当たり前”の存在です。



一 実際にどのように使用しているのでしょうか？

山口 : 映画、コマーシャル、ミュージックビデオ、Netflix、Apple TV等の撮影で、プレイバック、合成、メタデータ管理、簡易編集、映像配信などで使用しています。DITとQTAKEオペレーターが組んで使用しています。

一 最近の撮影でQTAKE ServerとQTAKE Cloud Syncサービスを組み合わせて使用したとのことですが、いかがでしたか？

山口 : 今回、3つのプロジェクトでQTAKE Serverを使用したのですが、3件とも海外の案件でした。「撮影場所は日本」「DP、Gaffer、DIT、Focus puller、等々の技術スタッフは日本人」「Director、Producer、Client等の演技指導や決定権を持つ人たちが海外」「現場で飛び交う言語は英語と日本語」というケースでした。

撮影現場のQTAKEからQTAKE Cloud / QTAKE Cloud Syncを使用し、海外のチームに映像を配信しました。海外にいるメンバーは収録された映像をQTAKE Monitorアプリを使い、各スタッフが好きなタイミングでプレイバックできる体制にしていました。QTAKE Serverには「docomo、au、SoftBank」の電波を利用し、電波圏外の際にドロップはしたのですが、概ね大丈夫だったと思います。



蓮生 : QTAKE Serverは収録映像をいつでも自分でプレイバックできるのが良いと思います。QTAKE Serverを使うのは長期間の撮影案件が多いのですが、クライアントが後々収録映像を見返したい時や、リモートの監督やカメラマンに、繋がりが気になった時などに自由にチェックしてもらえました。いくつかの配信システムを使用してきましたが、ライブ配信だけでなくプレイバック機能もあるのは、私が使用中ではQTAKEだけです。

山口 : 映像配信におけるQTAKEの大きなメリットは、セキュリティレベルが高い事です。僕は会社の代表ということもあり、セキュリティについては常に留意しなければいけないので。映像流出などの問題が起こると、クライアント、全てのスタッフ、自社にも大変な損害が発生します。

その点、QTAKEは映像制作者用に開発されているのでハッキングリスクが非常に低く、信頼度が高いです。モニタリングしているiPadからもデータを取り出せないで、プロジェクトが終了しても安心できています。

ー リモートプレビューの需要が増えているそうですが、お客様にはどのように提案しているのですか？

山口：GLADSADでは、クライアントのニーズと予算に合わせた提案ができるように、QTAKE以外にも、L' ESPACE Cloud View、Zoom配信のプランを用意しています。Cloud Viewは安定してIDとパスワードで視聴者を制限できますし、Zoomも視聴者をリアルタイムで視覚できます。海外案件はセキュリティの契約上、QTAKEを指定される事が多いです。指定が無ければ、お客様が希望するプランを「セキュリティ、現場体制、予算」を比較して選んでいただけます。

ー QTAKEを使っていて、印象に残っているエピソードはありますか？

蓮生：最近ネットワーク・ボンディングを試しています。複数のネットワーク回線を束ねて冗長性を持たせておくことで、一つのネットワーク回線で問題が発生しても他の回線に自動で切り替わるので、映像を途切れることなく配信することができます。一度ボンディングに失敗してクライアントへの映像が途切れてしまったことがあって、その際にボンディングの重要性を改めて実感しました。

ー 最後に「こうなったらいいな！」というQTAKEへのご要望があればお聞かせください。

山口：配信に関しては安定したネットワーク環境を構築することが前提だとは思いますが、安定が難しい時に映像ノイズを軽減する

方法がQTAKE側にもあるといいなと感じます。QTAKE Monitor側には設定があるのですが、送信側に原因があるケースも多いので。特に、ディレクターやプロデューサーが海外にいる場合です。

QTAKE Serverで複数のテイクを自分のタイミングで見る事は可能なのですが、ディレクターはテイク1を見た直後に役者と会話をします。しかし数十秒にも及ぶテイクの場合は、サーバーの安定した映像を見るのに時間がかかります。そうなる「配信が数秒遅れても良いから演技の映像をしっかりと見たい」となります。

低遅延であることがQTAKEの良さでもあるのですが、ネットワークの状況によっては動きが早い映像がフレーム落ちする事があるので、例えば遅延を数秒持たせて代わりに映像を安定させるようなバッファ変動モードがQTAKE側にもあると、状況に応じて選択できて便利かなと思います。

あと可能なら小型化を。DITとしてはショットマッチが必要です。QTAKE機能のShootだけを搭載した「Smart Assist Mini」や「QTAKE Server Box」があれば最高です。大きなベースを持ち運べない時は多々あるので。狭い場所、山、海、車、屋上、いくらでも。他にも希望はありますが、今後もQTAKEのアップデートに期待しています。



GLADSADがQTAKE、QTAKE Serverを使用した最新作品
Apple TV「Invasion」

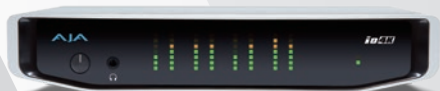
導入製品



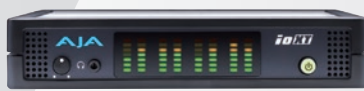
QTAKE



QOD (QTAKE Output Device)



AJA Io 4K



AJA Io XT



AJA KUMO 1616

本システムに関する問い合わせ先

株式会社 **アスク** メディア&エンタープライズ事業部

☎ 03-5215-5676 ✉ me@ask-corp.co.jp
🌐 www.ask-media.jp

QTAKE製品レンタルに関する問い合わせ先

株式会社 **エム・アイ・エム**

☎ 03-3556-6708 ✉ info@mim-corp.co.jp
🌐 https://mim-corp.co.jp